

第3学年 国語科

1 目標

- 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成する。
- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
 - (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
 - (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 評価について

評価の観点	評価材料
知識・技能	定期試験、小テスト、書写の作品など
思考・判断・表現	定期試験、小テスト、話す・聞く活動、作文など
主体的に学習に取り組む態度	作文、振り返りなど

3 授業について

- (1) 授業に必要なものは、教科書・ノート・ワーク・ファイルです。書写の学習の時は、書写の教科書と習字道具を使います。
- (2) チャイムが鳴ったらすぐに学習に取りかかれるように、休憩時間中に道具の準備をしておきましょう。
- (3) 積極的に自分の意見や考えを伝えたり、しっかりと他の人の意見や考えを聴いたりしましょう。
- (4) 予習は、ワークを活用して意味調べをしたり、漢字を練習したりしておきましょう。復習として、授業に沿ってワークの問題を解きましょう。

4 年間計画

月	単元	教材名	学習のねらい	関連する 道徳の関 連項目
4	1 深 ま る	世界はうつくしいと(詩) 握手。(小説) 漢字に親しもう1	・語感を磨き語彙を豊かにする。 ・文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉える。 ・予想される結論について考えながら、根拠となる情報や意見を聞き取る。 ・文法の知識を、表現や読解に生かす。	A(3) B(6) C(17) C(11) D(20)
5	学 び へ	文法への扉1「走って」いるのは誰? 季節のしおり 春 学びて時にこれを習ふー「論語」から(漢文・解説) 説得力のある構成を考えよう	・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむ。 ・目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にする。 ・実際の場面を想定しながら相手や場に応じた表現を考え、敬語を使う。	
6	2 広 視 野 を	作られた「物語」を超えて(論説) 思考のレッスン 具体化・抽象化 論理の展開を意識して書く 漢字1 熟語の読み方 漢字に親しもう2	・論説の特性を踏まえ、「具体と抽象」などの関係に着目して、論理の展開のしかたを図式化するなどして捉えている。 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深める。 ・自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫する。 ・漢字の音訓や、熟語における音訓の組み合わせに注意して、漢字を読んだり書いたりする。	B(9)
7	3 と 言 も 葉 に と	俳句の可能性(俳句・解説) 俳句を味わう 言葉の釣り糸を垂らす(随筆) 言葉2 和語・漢語・外来語 語彙を豊かに 書写(毛筆)	・筆者のものの見方や感じ方、表現のしかたなどを読み味わい、俳句の世界に親しむ。 ・それぞれの俳句に表現されている季節や情景、作者の思いなどを想像する。 ・文章の中から印象に残った事柄を挙げ、その理由や効果について考える。 ・和語、漢語、外来語などを、場面に応じて適切に使い分ける。 ・自分たちの世代とは異なる言葉の使い方を見つけ、語彙を豊かにする。 ・行書と仮名の調和、配列・配置に気をつけて書く。	C(10) C(18)
	S 情 報 G × s	実用的な文章を読もう／報道文を読もう 情報整理のレッスン 情報の信頼性	・複数の資料を比較し、共通点や相違点を捉え、情報と情報との関係について理解を深める。 ・情報の信頼性の確かめ方を理解し使う。	C(12)
	そ い ば つ に も 本 は	読書を楽しむ 「私の一冊」を探しに「羊と鋼の森」 読書案内 本の世界を広げよう コラム ためになるってどんなこと? 季節のしおり 夏	・今後読みたい本について考えを広げる。 ・身の回りの情報に目を向けてこれからの読書生活をより豊かなものにしていく。 ・目的をもって本を読み、表現上の特徴、文章の展開や場面などから文章を評価し、自分の考えを広げたり深めたりする。 ・読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考える。 ・言葉や表現の豊かな広がりを読み味わう。	C(11) C(15) C(17)
8 9	4 状 況 推 察 の 中	接拶ー原爆の写真によせて(詩) 故郷(小説) 推敲 論理の展開を整える 言葉3 慣用句・ことわざ・故事成語 聞き上手になろう 漢字2 漢字の造語力	・作者のものの見方や考え方が表されている表現に着目し、人間や社会について考える。 ・情景や人物描写の表現に着目し、登場人物の心情や作者の意図を読み取る。 ・書いた文章を読み返し、文章全体を整える。 ・慣用句に関する知識を広げ、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・自分の経験などと結び付けながら聞き、相手の思いに迫る質問や話を豊かに展開させた応答について考える。 ・表意文字である漢字の特徴を捉え、漢字の造語力について知識を広げる。	B(8) C(17) C(18) D(19)
10	5 考 え 自 ら	複数の意見を読んで、考えよう(論説) 考えを効果的に伝えよう 漢字に親しもう3 文法への扉2「ない」の違いがわからない? 聴きひたる 初恋(詩) 季節のしおり 秋	・文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつ。 ・表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫する。 ・文法についての理解を深める。 ・言葉の響きやリズムを味わいながら詩に親しむ。 ・語感を磨き語彙を豊かにする。	C(17)
11	6 を い に 受 け し 難 く の 心	和歌の世界 音読を楽しむ 古今和歌集 仮名序 君待つとー万葉・古今・新古今(古文) 夏草ー「おくのほそ道」から(古文) つながる古典／古典名作選 書写(毛筆)	・言葉や表現の豊かな広がりを読み味わう。 ・繰り返し声に出して読み、古文の言葉の響きを味わう。 ・和歌を読み比べるなどして、効果的な表現や語句の使い方を読み味わう。 ・歴史的背景などを想像しながら、作者のものの見方や感じ方を読み取る。 ・目的に応じて文章を読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりする。 ・相手の状況をふまえながら、心に残った古典の言葉を引用してメッセージを書く。 ・全体の調和を考え、配列・配置よく書く。	C(10) C(17)
12	7 生 み 出 す	それでも、言葉を(評論) 漢字3 漢字のまとめ 漢字に親しもう4 話し合い(進行) 話し合いを効果的に進めよう 季節のしおり 冬	・文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつ。 ・論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだす。 ・話し合いの目的や進み具合などを確かめながら、効果的に話し合う工夫について、展望をもって考える。 ・進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりする。	C(17) D(20) C(18)
	は も 本	本は世界への扉(読書) 読書案内 本の世界を広げよう	・自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解する。 ・言葉や表現の豊かな広がりを読み味わう。	C(18)
1 2 3	8 向 え か か っ て	温かいスープ(随筆) わたしを束ねないで(詩) 三年間の歩みを振り返ろう 漢字に親しもう5	・文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつ。 ・場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する。	A(3) B(16) C(18)

第3学年 社会科

1 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。

2 評価について

評価の観点	評価材料
知識・技能	定期試験、小テスト、課題など
思考・判断・表現	定期試験、レポート、課題など
主体的に学習に取り組む態度	振り返りシート、授業ノート、課題など

3 授業について

- (1)歴史の授業に必要なものは教科書・ノート（ファイル）・ワーク・資料集の4点です。公民の授業に必要なものは教科書・ノート（ファイル）・ワーク・資料集の4点です。忘れ物をしないようにしましょう。
- (2)日頃から新聞やニュースに親しみ、国内・国外の社会の動きを知り、関心を持つようにしましょう。
- (3)定期試験は、授業でやったことが身についたかを調べるので、テスト勉強の時に復習に使えるようなノート（ファイル）にすることがとても大切です。①自分の考えをしっかりと書く、②板書をきちんと写す、③重要項目は色ペンで強調して書くなど、①～③を必ずやりましょう。ノート（ファイル）は定期的に提出してもらいます。
- (4)新しく習った地名・用語は、自分でもう一度地図帳・教科書を開き、位置を確認し、その日の復習をしましょう。
- (5)その日の授業で学習した基本語句は、正しく書けるように繰り返し練習しておきましょう。

4 年間計画

月	分野	単元・節・章	学習のねらい	関連する道徳の項目
4	歴史的分野	本開の国歩と近代5日 3節 明治維新 4節 日清・日露戦争と近代産業	明治維新の諸改革によって近代国家の基礎が整えられ、人々の生活が変化したことを理解する。日清・日露戦争、条約改正などを基に、我が国の国際的な地位が向上したことを理解する。議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、議会政治の始まりと国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。	C(17)
5		大戦と日本 1節 第一次世界大戦と日本 2節 大正デモクラシーの時代 3節 世界恐慌と日本の中国侵略 4節 第二次世界大戦と日本	経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現、第二次世界大戦と人類への惨禍について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。	C(17)
6		現代の日本 1節 戦後日本の出発 2節 冷戦と日本の発展 3節 新たな時代の日本と世界	第二次世界大戦後の、男女普通選挙の確立、日本国憲法の制定などの日本の民主化と再建、国際社会への復帰について理解する。また、民族や宗教をめぐる対立や地球環境問題への対応などをも取り扱い、世界の動きと関連させながら理解する。	
	平和教育プログラム	核兵器をめぐる世界の現状	核兵器廃絶に向けた世界の取組の過程と現状を調べ、現在の課題を考察し、表現する。	C(18)
7	公民的分野	第1章 現代社会 1節 現代社会の特色と私たち 2節 私たちの生活と文化 3節 現代社会の見方や考え方	現代社会の成り立ちを知り、その特色に気づく。国際社会の変容や日本の役割を国民生活と関連させて考察し、表現する。	
9		第2章 個人の尊重と日本国憲法 1節 人権と日本国憲法 2節 人権と共生社会 3節 これからの人権保障	人権の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、日本国憲法の三原則についての理解を深める。 人間は本来、社会的な存在であることに着目し、個人と社会の関わりについて考え、個人の尊厳と両性の本質的平等について気づく。 民主的な社会を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解し、すべての人々の基本的人権を保障することが共存社会の実現に不可欠であることに気づき、そのために、自分たちがどのような努力をすべきか考える。	C(11) C(10) C(11)
10		第3章 現代の民主政治 1節 現代の民主政治 2節 国の政治の仕組み 3節 地方自治と私たち	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目し、将来、国の政治に参加する公民として、民主的な政治と政治の方法や政党の役割を理解し、議会制民主主義の意義について考察し、表現する。 国会を中心とする民主政治のしくみとして、議会制民主主義の意義、議院内閣制、司法権の独立と法に基づく公正な裁判の保障があることを理解する。 地方自治の基本的な考え方と、地方公共団体の政治のしくみを理解し、住民の権利や義務に関連させて、住民としての自治意識の基礎を身につける。	
11		第4章 私たちの暮らしと経済 1節 消費生活と経済 2節 生産と労働 3節 市場経済の仕組みと金融 4節 財政と国民の福祉 5節 これからの経済と社会	身近な消費生活を中心に、経済活動の意義が人間の生活の維持・向上にあることや、社会における企業の役割と社会的責任について考察し、表現する。 現代企業の特徴を考察しながら、労働に関する権利、課題について考察し、表現する。 価格の働きに注目し、市場経済の基本的な考え方について理解する。勤労の権利・義務、労働組合の意義、労働基準法の精神と関連づけて、雇用と労働条件の改善について考察し、表現する。 国民生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている経済的な役割について考える。租税の意義と役割を理解し、限られた財源という観点で財政について考察し、表現する。 環境を保全し、循環型社会を形成するために私たちにできることを考える。世界における日本経済の現状と課題について考察し、表現する。	
12				
1		第5章 地球社会と私たち 1節 国際社会の仕組み	世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国家間相互の主権の尊重と協力、各国の相互理解と協力が大切であることを認識する。さらに、日本国憲法の平和主義について理解を深め、日本の安全の問題について考えるとともに、核戦争の脅威について着目し、戦争を防止し世界平和を確立するための熱意と協力の態度を身につける。	C(18)
2		2節 さまざまな国際問題 3節 これからの地球社会と日本	協調や、持続可能性などに着目して、人類の福祉の増大を図り、よりよい社会を築いていくために解決すべき課題として、領土、国家主権、地球環境、資源・エネルギー問題などについて考察し、表現する。 国際社会における日本の役割やあり方について考察し、表現する。	
3		まとめと課題学習	3年間のまとめの学習をする。	



第3学年 数学科

1. 目標

- (1) 数の平方根、多項式と二次方程式、図形の相似、円周角と中心角の関係、三平方の定理、関数 $y = ax^2$ 、標本調査などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けようとする。
- (2) 数の範囲に着目し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力、図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、標本と母集団の関係に着目し、母集団の傾向を推定し判断したり、調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする態度を養う。

2. 評価について

評価の観点	評価材料
知識・技能	定期試験、確認テスト
思考・判断・表現	定期試験、確認テスト、レポートなど
主体的に学習に取り組む態度	確認テスト、単元のふり返りや単元のまとめ、問題集など

3. 授業について

- (1) 授業に必要なものは、教科書、ノート、問題集、ファイル、定規、コンパス（図形の時）です。
- (2) 宿題や課題は、期日を守ってしっかりと取り組みましょう。
- (3) 数学の力を上げるには、毎日の家庭学習が欠かせません。特に、復習に取り組むことが大切です。
- (4) 入試直前には、過去の入試問題を利用して入試対策を行っていきます。

4. 年間計画

月	学習内容	学習のねらい	関連する 道徳の項目
4	式の計算	・単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式でわる除法の計算をすることができる。	
5	①多項式の計算 ②因数分解 ③式の利用	・簡単な一次式の乗法の計算及び乗法公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすることができる。	
6	平方根	・数の平方根の必要性和意味や数の平方根の大小関係、有理数と無理数について理解する。	
7	①平方根 ②根号をふくむ式の計算	・数の平方根を含む簡単な式の計算をすることができる。 ・具体的な場面で数の平方根を用いて表すことができる。	
9	2次方程式 ①2次方程式の解き方 ②2次方程式の利用	・2次方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解する。 ・因数分解したり平方の形に変形したり、解の公式を用いたりして2次方程式を解くことができる。 ・2次方程式を具体的な場面で活用することができる。	
10	関数 $y = ax^2$ ①関数 $y = ax^2$ ②いろいろな関数	・関数 $y = ax^2$ について理解し、変化の対応の特徴を見いだし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ・いろいろな事象の中に、関数関係があることを理解する。	
11	相似な図形 ①相似な図形 ②平行線と相似 ③相似な図形の面積比・体積比	・三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。 ・平行線と線分の比についての性質を見いだすことができる。 ・相似な図形の相似比と面積比や体積比との関係について理解する。	A(5)
12	円 ①円周角と中心角 ②円周角の定理の利用	・円周角と中心角の関係の意味や、円周角の定理の逆について理解する。 ・円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用することができる。	
1	三平方の定理 ①三平方の定理 ②三平方の定理の利用	・三平方の定理の意味を理解する。 ・三平方の定理を見いだすことができる。 ・三平方の定理を具体的な場面で活用することができる。	
	標本調査 ①標本調査	・全数調査の意味及び標本調査の必要性和意味を理解する。 ・標本調査から、母集団の傾向を推定し判断することができる。	
2	まとめと演習	・3年間のまとめをする。	

第3学年 理科

1 目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探求するために必要な資質・能力を育成する。

2 評価について

評価の観点	評価材料
知識・技能	定期試験、小テスト、レポート、実技テストなど
思考・判断・表現	定期試験、小テスト、レポートなど
主体的に学習に取り組む態度	レポート、振り返りシートなど

3 授業について

- (1)授業に必要なものは教科書・学習ノート、ファイルです。忘れ物をしないようにしましょう。
- (2)実験・観察は予想を立てて、自分の考えと比較しながら行いましょう。考察は、実験の結果をふまえ、具体的に書きましょう。
- (3)学習ノートの問題をやるなどして、その日に習ったことはその日のうちに復習しましょう。
- (4)学習ノートは定期試験の時の学習に活用しましょう。プリントはファイルにきちんととじ、普段から整理しておきましょう。
- (5)入試問題集は長期休暇中の課題や実力テストの自主学習として提出します。早くから、入試を意識して学習に取り組みましょう。

4 年間計画

月	単元	章	学習のねらい	関連する道徳の項目
4	生命の連続性	1章 生物のふえ方と成長	細胞のつくりを思い出し、種子から根ののびる様子を観察し、細胞分裂の観察を行い、生物の生長を細胞の分裂と関連付けて理解する。	D(19)
		2章 遺伝の規則性と遺伝子	生物がふえていくとき、染色体にある遺伝子を介して親から子へ形質が伝わることを、そしてその伝わり方に規則性があることを理解する。	
		3章 生物の種類の多様性と進化	現存の多様な生物は過去の生物が長い時間の経過の中で変化して生じてきたものであることを体のつくりと関連づけて理解する。	
6	化学変化とイオン	1章 水溶液とイオン	水溶液には電流を通すものと通さないものがあることや、イオンの生成が原子の成り立ちに関連することを理解する。また、電池の原理を説明することができる。	
		2章 電池とイオン	金属によってイオンへのなりやすさに違いがあることを見だし、イオンのモデルと関連づけながら理解する。また、イオンのモデルを用いて電池の基本的な仕組みを説明することができる。	
		3章 酸・アルカリと塩	酸やアルカリのそれぞれの特性を理解するとともに、電離の様子を説明できるようになる。また、中和反応をイオンのモデルを使って説明することができる。	
9	運動とエネルギー	1章 力の合成と分解	重力と浮力のつり合いの関係から、浮き沈みのしくみを理解する。また、合力を導入し、作図によって合力を求めることができる。	
		2章 物体の運動	記録タイマーなどを使って、物体の速さや運動の様子を調べる方法を身に付け、物体にはたらく力と運動との関係を理解する。	
		3章 仕事とエネルギー	仕事の量の求め方を理解し、仕事の原理を見出すことができる。また、位置エネルギーや運動エネルギーの大きさと物体の高さや質量、速さとの関係を見出し、力学的エネルギー保存の法則を理解する。	
		4章 多様なエネルギーとその移り変わり	身のまわりにあるいろいろなエネルギーに気づき、それらのエネルギーはどのように移り変わるかを理解するとともに、エネルギーの総量は一定に保たれることを理解する。	
		5章 エネルギー資源とその利用	人間は多様なエネルギー資源を消費していることを知るとともに、エネルギー資源の確保や、安全で有効な利用と環境保全をはかることの重要性を理解する。	
11	宇宙を観る	1章 宇宙の天体	太陽の形や大きさ、表面の様子などの特徴を理解するとともに、惑星と恒星の特徴や太陽系の構造を理解する。	D(20) D(21)
		2章 太陽と恒星の動き	天体の日周運動が地球の自転による相対運動であることを理解するとともに、季節ごとの星座の位置の変化や太陽の南中高度の変化を調べ、地球が公転していることや地軸が傾いていることと関連づけて理解する。	
		3章 月と金星の動きと見え方	月や金星の動きや見え方の観察を行い、見え方を月や金星の公転と関連づけて理解する。	
12	自然と人間	1章 自然界のつり合い	植物、動物および微生物を栄養摂取の面から相互に関連づけて捉えるとともに、自然界では、これらの生物がつり合いを保って生活していることを見いだすことができる。	D(19) C(18) D(20) D(21) C(18)
		2章 さまざまな物質の利用と人間	日常生活や社会では、さまざまな物質が使用目的や用途に応じて使い分けられていることを認識し、物質を有効利用するためには、物質の再利用などが大切であることを見いだす。	
		3章 科学技術の発展	さまざまな科学技術の利用が人間の生活を豊かで便利にしていることを認識し、最新の科学技術について調べ、これからの科学技術の発展の方向性を検討する。	
		4章 人間と環境	人間の活動などさまざまな要因が自然現象に影響をあたえていることについて理解するとともに、大地の特徴を理解し、自然を多面的、総合的に捉え、資源と人間の関わり方について、科学的に考察して判断する。	
		5章 持続可能な社会を目指して	科学技術の発展と人間生活との関わり方について多面的、総合的に捉え、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し、持続可能な社会をつくることの重要性を認識する。	
3	各単元		各単元内容の復習を学習ノート、プリントなどを使って行う。	

第3学年 音楽科

1 目標

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付ける。
- (2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。
- (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

評価の観点	評価材料
知識・技能	定期試験・実技テスト・授業プリント・ノートなど
思考・判断・表現	定期試験・実技テスト・授業プリント・ノートなど
主体的に取り組む態度	実技テスト・授業プリント・ノートなど

3 授業について

- (1) 授業に必要なものは教科書、器楽教科書、ワーク、リコーダー、ファイル、ノートです。忘れ物をしないようにしましょう。
- (2) 歌唱やリコーダーなどの実技を音楽の時間に一生懸命取り組みましょう。
- (3) 先生の説明を聞くとときや音楽を鑑賞するときは集中してよく聴きましょう。
- (4) 感想文を書くときは、自分が感じたことや聞き取ったことをしっかり文章表現しましょう。

4 年間計画

期	月	題 材	学習のねらい	関連する 道徳の項目
前期	4	日本の歌のよさや美しさを理解して、歌唱表現を工夫しよう	●曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。	D(21)
	5	曲の構成を理解して、リズムアンサンブルの表現を工夫しよう	●曲想と音楽の構造や曲の背景との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい器楽表現を創意工夫して演奏する。 ●音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解するとともに、それらを生かしたまとまりのある創作表現を創意工夫して音楽をつくる。	
	6	音楽の特徴や背景を理解して、その魅力を味わおう	●曲想と音楽の構造との関わり、音楽の特徴とその背景となる歴史との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	
	7	ポピュラー音楽の特徴を理解して、その魅力を味わおう	●音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解するとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	
	9	曲想やパートの役割を感じ取って、歌唱表現を工夫しよう	●曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。	
後期	10			
	11	曲種に応じた発声を生かして、歌唱表現を工夫しよう	●声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。	C(17)
	12	世界の諸民族の音楽の特徴を理解して、その魅力を味わおう	●我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解するとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	C(18)
	1	和楽器の音色や響きを理解して、その魅力を味わおう	●楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解するとともに、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	
	2 3	仲間とともに、表情豊かに合唱しよう	●曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。	B(6)

第3学年 美術科

1 目標

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の動きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

2 評価について

評価の観点	評価材料
知識・技能	制作過程、作品、授業プリント、定期試験、授業観察など
思考・判断・表現	制作過程、作品、授業プリント、定期試験、授業観察など
主体的に学習に取り組む態度	制作過程、作品、授業プリント、定期試験、授業観察など

3 授業について

- (1) 忘れ物に気をつけましょう。他クラスの人のは借りないようにし、忘れ物をしたら先生に伝えましょう。
- (2) 授業開始時に「めあて」を、終了時に「振り返り」を振り返りシートに記入しましょう。
- (3) 授業中(特に制作時)は集中し、会話を控えましょう。仲間の制作を邪魔してはいけません。
- (4) 制作計画に従って授業の中で作品制作できるようにしましょう。授業内に完成できなかったものは宿題になります。

4 年間計画

月	分野	題材	学習のねらい	関連する 道徳の項目
4	導入	オリエンテーション	美術科のねらいや授業のルール、さらに評価基準を理解させ、共有する。	A(2)
4	絵 画 ・ 鑑 賞	構図と遠近法	構図、遠近法がそれぞれ絵画やデザイン(平面構成)にどのような働きをしているかを学習し、理解することができる。	
4 5 6 7	デ ザ イ ン	遠近法を使った 平面構成	前の授業で学習した遠近法を使って、平面構成をすることができる。 ①一点透視図法を使って、デザインすることができる。 ・定規、三角定規を使って平行移動の練習をする。 ・広がりを感じさせる工夫を学習する。(はみ出し) ・奥行きを感じさせる工夫を学習する。(重なり) ②配色の工夫をすることによって、より魅力的な彩色ができるようにする。 ・資料集で配色の工夫を復習し、構成に合った配色を決める。 ・丁寧な彩色ができるように工夫する。(定規を使って斑なく塗る) ・構成した図形に合う背景を彩色する。	
7 8	鑑 賞	「最後の晩餐」を鑑賞しよう	制作した平面構成の作品に使った遠近法がこの作品にも使われていることを理解することができる。 ・この作品にはどんな場面が描かれているかを知る。 ・レオナルド・ダ・ヴィンチがこの作品を制作した動機をさぐる。	C(18)
9 10 11 12	デ ザ イ ン 工 芸	木でつくる	彫刻刀を使って製作する楽しさを体感することができる。 ・モチーフをどのようにデザインしていくか、完成までの手順をアイデアスケッチする。 ・バランスよく構成するよう工夫する。 ・下書きを正確にトレースする。 ・彫り方の基本を守ってケガ無く完成させる。	
1 2 3	工 芸	紙でつくる	色画用紙を使って、ギフトカードを作ることができる。	

第3学年 保健体育科（男子）

1 目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。

2 評価について

評価の観点	評価材料
知識・技能	定期試験・各実技テストなど
思考・判断・表現	定期試験・各競技取り組み・授業プリント・ノートなど
主体的に学習に取り組む態度	各競技取り組み・授業プリント・ノート・小テストなど

3 授業について

- ・体育の授業で必要な物は、体操服とハーフパンツです（体育館では体育館シューズも必要）。遅れずに授業場所に替えて集合しましょう。
- ・見学をする場合は、保護者の方に所定の届けを記入してもらいましょう。原則、体操服に着替えて見学します。
- ・新しい種目を学ぶときは、実技の本を利用して、競技用語やルールを予習しましょう。
- ・保健の授業で必要な物は、保健の教科書・学習ノート・ファイルです。忘れ物をしないようにしましょう。

4 年間計画

<体育分野>

月	単元	小単元・項目	学習のねらい	関連する道徳の項目
4	体づくり運動	体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則方法などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立てて取り組むことができる。	A(3)
	体育理論	文化としてのスポーツ	文化としてのスポーツの意義について理解する。	C(18)
5	水泳	クロール・平泳ぎ・背泳ぎ	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができる。	
6	球技	サッカー	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。	C(11)
7	陸上競技	ハードル走	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、種目特有の技能を身に付けることができる。	C(11)
9	球技	バレーボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。	
10		長距離走	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、自己に適したペースを維持して走ることができる。	
11	球技	バスケットボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。	C(11)
12	球技	ソフトボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。	
1				C(11)
2				
3				

<保健分野>

月	単元	学習のねらい	関連する道徳の項目
4～3	感染症の予防と健康を守る社会の取り組み 環境の健康への影響	健康な生活と疾病の予防について理解を深める。 健康と環境について理解を深める。	A(2)

第 3 学 年 保 健 体 育 科（女子）

1 目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。

2 評価について

評価の観点	評価材料
知識・技能	定期試験・各実技テストなど
思考・判断・表現	定期試験・各競技取り組み・授業プリント・ノートなど
主体的に学習に取り組む態度	各競技取り組み・授業プリント・ノート・小テストなど

3 授業について

- ・体育の授業で必要な物は、体操服とハーフパンツです（体育館では体育館シューズも必要）。遅れずに授業場所に着替えて集合しましょう。
- ・見学をする場合は、保護者の方に所定の届けを記入してもらいましょう。原則、体操服に着替えて見学します。
- ・新しい種目を学ぶときは、実技の本を利用して、競技用語やルールを予習しましょう。
- ・保健の授業で必要な物は、保健の教科書・学習ノート・ファイルです。忘れ物をしないようにしましょう。

4 年間計画

< 体育分野 >

月	単元	小単元・項目	学習のねらい	関連する 道徳の項目
4	体づくり運動	体はぐしの運動 実生活に生かす運動の計画	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則方法などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立てて取り組むことができる。	A(3)
5	体育理論	文化としてのスポーツ	文化としてのスポーツの意義について理解する。	C(18)
6	器械運動	平均台	技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、自己に適した技で演技することができる。	
7	水泳	クロール 背泳ぎ 平泳ぎ	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができる。	
9	ダンス	現代的なリズムのダンス	感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方を理解するとともに、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をすることができる。	
10				
11	球技	バスケットボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。	C(11)
12				
1	陸上競技	長距離走	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、自己に適したペースを維持して走ることができる。	
2				
3	球技	卓球	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。	C(11)

< 保健分野 >

月	単元	学習のねらい	関連する 道徳の項目
4～3	感染症の予防と健康を守る社会の取り組み 環境の健康への影響	健康な生活と疾病の予防について理解を深める。 健康と環境について理解を深める。	A(2)

第3学年 技術・家庭科(技術分野)

1 目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係わる技術を身につけ、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

2 評価について

評価の観点	評価材料
知識・技能	定期試験、授業観察、実習
思力・判断・表現等	定期試験、授業観察、実習、レポート
主体的に学習に取り組む態度	定期試験、授業観察、実習、学習ノート、レポート

3 授業について

- 技術の学習は、毎時間授業目標が示されますから、説明をよく聞き、目標に到達できるように真剣に取り組みましょう。
- 準備物は教科書、学習ノート、ファイルの3点です。ファイルはレポート作品や学習プリント類も保存し、卒業まで使用します。大切に扱い、忘れ物のないようにしましょう。
- 課題、宿題はきちんとやりましょう。学習ノートは積極的にまとめていきましょう。

4 年間計画

月	単元	主な学習内容	学習のねらい	関連する道徳の関連項目
4	技術と生活	○身の回りにおけるエネルギー変換の技術	○世の中のエネルギー利用について知る。	C(17)
5	エネルギー資源の利用	○エネルギーの利用 ○燃料を利用した技術 ○発電と送電のしくみ ○エネルギー変換効率と省エネルギー	○エネルギー資源の利用について知る。	
6	電気の利用	○電気エネルギーの特徴 ○光や熱に変換するしくみ ○動力や音・信号に変換するしくみ ○電気回路と回路図 ○電気機器の保守点検	○電気の利用について知る。	
7				
9	運動の利用	○力の伝達 ○動きを変化させるしくみ ○力や運動を保存するしくみ ○部品の固定と共通部品 ○機械の保守点検	○運動の利用について知る。	
10				
11				
12	エネルギー変換による問題解決	○問題発見と課題の設定 ○設計・製作 ○評価・改善	○エネルギー変換による問題解決方法を知る。	
1				
2				
3	評価	○学習の振り返り	○学習したことについての自己評価や反省点などを踏まえ、学習成果をまとめることができる。	

第3学年 技術・家庭科（家庭分野）

1 目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活に工夫し創造する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。
- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し考察したことを倫理的に表現するなどこれからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協力し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

2 評価について

評価の観点	評価の方法
知識・技能	実習観察・プリント・ノート・試験
思考・判断・表現	作品・プリント・ノート・試験
主体的に学習に取り組む態度	作品・プリント・振り返りカード

3 授業について

- (1) 持参物では、教科書、学習ノート、ファイルです。
- (2) 授業を大切にし、真剣に取り組みましょう。
- (3) プリントの整理を普段からきちんとやっておき、期限を守って提出しましょう。
- (4) 作品の製作などの実習では、準備から片付けまできちんとやりましょう。

4 年間計画

月	題 材	小 題 材	学習のねらい	関連する 道徳の項目
4	幼児の生活と家族	技術・家庭科の授業について	・技術家庭科の授業について注意事項などを学ぶ。	D－(19)
5		1 幼児の生活と家族	・幼児の頃を振り返り、今の自分があることに気づく。	
6		2 幼児の心身の発達	・幼児の心身の発達と生活の特徴が分かり、こどもが育つ環境としての家族の役割について理解する。	B－(6)
7		3 遊びが必要なわけ	・幼児にとっての遊びの意義について理解する。	
9		4 幼児のかかわり	・幼児の心身の発達と生活の特徴を踏まえ、幼児に応じた関わり方が大切である。 (紙を用いた幼児の遊び道具を製作する)	
10		5 家庭生活と地域のかかわり	・家族の互いの立場や役割が分かり、協力することによって家族関係をよりよくできることについて理解する。 ・家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者などの地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わりについて理解する。	C－(14)
11				
12				
1		6 家族・家庭生活についての課題と実践	・幼児の生活の中から問題を見い出して課題を設定し、その解決に向けてよりよい生活を考え、計画を立てて実践できる。 (今までの学習との関連を図り、幼児の間食を作る。)	
2				
3				

第3学年 英語科

1 目標

- (1)英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションで活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりできる力を養う。
- (3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

2 評価について

評価の観点	評価材料
知識及び技能	定期試験、単元テスト、パフォーマンステストなど
思考・判断・表現力	定期試験、単元テスト、パフォーマンステストなど
主体的に学習に取り組む態度	単元テスト、パフォーマンステスト、単元の振り返りなど

3 授業について

- (1)授業で必要なものは、教科書、ノート、ワーク、ファイルです。
- (2)英語の音に慣れるため、先生やデジタル教科書の発音をまねて声に出しましょう。発声を楽しむのが上達のコツです。
- (3)英語を使う活動に積極的に参加し、コミュニケーションの力を上げていきましょう。
- (4)わからないことや疑問に思ったことは、その都度質問をするようにしましょう。
- (5)英語の力を上げるには、毎日の家庭学習が欠かせません。特に、復習にコツコツ取り組むことが大切です。

4 年間計画

月	単元	単元名	学習のねらい	関連する道徳の項目
4	Review Lesson	Washoku, or Japanese Cuisine	2年生で学んだ内容を振り返り、3年生での学びへの準備をすることができる。	C-(16)
5	Lesson1	Aya visits Canada	自分や相手の興味深い場所について、相手の話の要点を捉えたり、自分の考えを話したりすることができる。	C-(17)
	Tips① for Listening	話の概要をとらえる	英語のアナウンスを聞いて、話の概要をとらえることができる。	
	Useful Expressions	観光案内所での表現	観光案内所で、自分の行きたい場所までの行き方をたずねることができる。	
6	Tips② for Writing	英語で手紙を書く	お世話になっている人へ、英語で感謝の気持ちを伝える手紙を書くことができる。	
	Lesson2	The Eagles in Hokkaido	環境の保全について、書き手の話の概要を理解して、自分の考えを書くことができる。	D-(20)
	Tips② for Reading	物語文のできごとの順序に注意して読む	話の概要を捉え、文章をできごとの順序に整理して読みとることができる。	
7	Lesson3	News and Ads	ニュースについて実況中継をするために、人やものについて詳しく話すことができる。	C-(18)
	Project1	CMをつくって発表しよう!	ある商品やサービスをアピールするCMを作り、発表することができる。	
9	Reading1	Audrey Hepburn	話の概要や要点を捉え、登場人物の思いをイメージしながら読み取ることができる。	C-(12)
	Lesson4	Sports Legends	自分が調べた人物について、読み手に伝わるように内容を整理して書くことができる。	A-(1)
10	Tips④ for Writing	相手にわかりやすい文章の書き方	読み手を意識して、自分の伝えたいことをわかりやすく書くことができる。	
	Lesson5	Being True to Ourselves	書き手の考えをふまえてアドバイスをするなど、自分の考えを整理して書くことができる。	A-(3)
	Tips⑤ for Reading	先を予測しながら読む	物語文や説明文の展開を推測しながら読み進めることができる。	
11	Tips⑥ for Writing	自分の考えを具体的に伝える	ある主張に対して、2つ以上の理由を示して自分の考えを書くことができる。	
	Lesson6	Why do We Have to Work?	働くことについて、相手の意見の要点を聞き取り、自分の考えを整理しながら意見を述べるができる。	C-(14)
12	Tips⑦ for Speaking	即興で自分のことや考えを伝える	即興で自分の考えを話し、相手とやり取りができる。	
	Lesson7	Debating Doggy Bags	ディベートにおいて、相手の意見を聞いて要点を捉えたり、自分の考えを整理して意見を述べたり反論したりすることができる。	A-(1)
1	Project3	ディベートをしよう!	ディベートにおいて、相手の意見を聞いて要点を捉えて質問をしたり、自分の考えを整理して意見を述べたり反論したりすることができる。	
	Reading2	My Prayer for Peace	平和についてのスピーチを読み、文章の要点を捉えることができる。	C-(18)
2	3年間の復習		学んだ内容を振り返るとともに、考えたことや感じたこと、その理由などを、話したり書いたりすることができる。	
3	Project2	英語で卒業スピーチをしよう	中学校生活での思い出や将来の夢、クラスメイトのメッセージなどについて、スピーチをすることができる。	C-(18)